

Hitachi Solutions Create

HITACHI



AIプラス 生成AIソリューションの紹介

株式会社 日立ソリューションズ・クリエイト

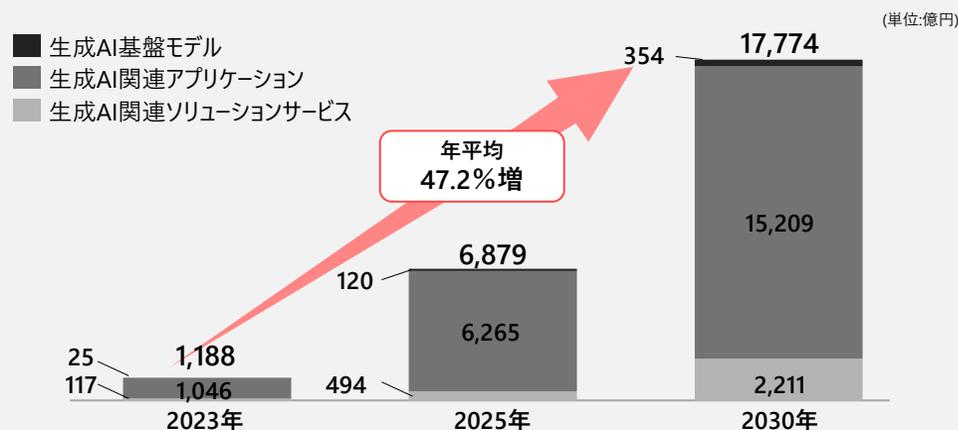
1. 生成AIの現状と課題
2. AIプラス 生成AIソリューションとは
3. 当社事例
4. サービスメニュー
5. 動作環境

1. 生成AIの現状と課題

1 - 1 生成AI市場の現状と見通し

2022年11月のChatGPTリリース以降、多様なモデルを用いた生成AIが大きく注目され、市場規模は2030年には2023年比で10倍以上となる見込みです。国内では大手企業を中心に導入検討が進められており、今後2～3年で中小企業へも導入が加速すると考えられています。一方で技術進化の速さゆえに、利用者にユースケースを委ねる生成AIサービスが大半であり、市場全体でAIの活用方法を模索している段階です。

生成AI市場の需要額見通し（日本）



(出典)JEITA 生成AI市場の世界需要額見通し <https://www.jeita.or.jp/japanese/topics/2023/1221-2.pdf>

サービス提供ベンダーの動向

- ChatGPTに代表される「生成AI基盤」分野は海外企業がほぼ独占
- Microsoft（Azure）、Google、AWSといったプラットフォームが公開する開発ベンダー向けAPIを利用して、各ベンダーがサービスを市場投入



情報検索や文書要約、翻訳など
基本機能が簡単に利用できることを売りにしたサービスが中心で
そのユースケースは利用者に委ねられている

市場が急拡大する一方で、活用方法は模索段階にあり
生成AIへの期待は高まるものの、課題が多いのが実態

1-2 生成AIに関して、こんなことでお悩みではないでしょうか？

業務へ生成AIの導入を検討する際には、たくさんの悩みやリスクに対する不安が発生します。
何から検討を始めればよいか分からない、導入した結果、本当に業務効率が上がるのか不安といった声も聞かれます。
当社のAIサービスは、そのような悩みを解決し、お客さまの業務効率化の実現をお手伝いします。

生成AIの導入検討を経営層から指示されたが、何から始めればよいか分からない

生成AIでどんなことができるのか、よく分かっていない

すでに導入しているものの、業務への活用方法が分からない

生成AIを使って、業務効率が本当に上がるのか不安

生成AIを使用して社内情報を活用し、業務を自動化・効率化したい



そのお悩み、日立ソリューションズ・クリエイトが解決します！

2. AIプラス 生成AIソリューションとは

生成AIの環境が整ったとしても、それを実際に使いこなせなくては意味がありません。

当社では、生成AI環境の提供を中心に、業務の可視化や課題整理、生成AI活用による業務効率化の検証や個別システムの開発まで、幅広く提供しています。

また、生成AIに関する教育も用意していますので、お客さまにおける生成AI導入を総合的にサポートします。

生成AIの環境提供だけでなく教育からシステム開発まで一貫して提供！

1.

環境提供

生成AI環境の
導入サポート



2.

教育

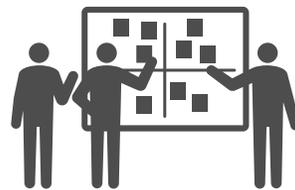
生成AIの基礎に関する
講座開催



3.

課題整理

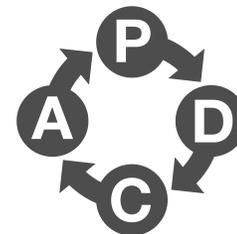
お客さまの業務の
可視化と課題整理



4.

価値検証

生成AI活用による
価値検証サポート



5.

個別システム開発

お客さまの個別課題に
業務システムと
連携したシステム開発



多様な生成AIモデルに対応した生成AI活用環境を、SaaSとしてすぐに利用可能な状態で提供します。
 翻訳、要約、議事録作成、画像生成など業務に不可欠な機能を標準搭載し、セキュリティ対策も充実しています。
 AIIエージェントが、Microsoft 365やお客さまの社内・社外情報を自律的に参照して回答できます。

1.環境提供 (生成AIアシスタント)

- 日立ソリューションズ・クリエイトが提供する生成AIの実行環境
- SaaSとして提供し、すぐに利用可能
- 第三者への回答に再利用されることはなく、安心して利用可能
- 生成AIの利用量や業務内容ごとの統計情報など社内の活用状況を確認可能

**お客さまの社内での
生成AIの導入・活用をサポート**



多様な生成AIモデルを活用可能

Azure OpenAI, Amazon Bedrock, Google Geminiなど主要な生成AIモデルに対応

業務活用が容易

翻訳、要約、議事録作成、画像生成といった業務に不可欠な機能を標準搭載し、すぐ業務に活用可能

Microsoft 365と連携

SharePointやOneDrive内の情報も検索可能、社内情報の活用を最大化し、業務効率向上を支援

AIIエージェントによる精度向上

社内情報や社外情報など、複数のデータから必要な情報をAIIエージェントが自律的に判断して回答することで回答の精度を向上。画像やドキュメントの構成も意識した回答が可能



ユースケースの社内共有

誰でもチャットボットやアプリケーションを作成して、社内展開が可能。社内のユースケースを社員間で共有し、社内全体の業務効率向上が可能

生成AI環境の提供だけでなく、生成AIの基礎教育やお客様の業務課題を抽出するワークショップも開催します。
また、生成AIの活用でお客様の課題が解決できるか検証し、その効果が認められた段階でお客様に合わせたシステム開発を行います。
さらには、お客様との協創や検証で蓄積したユースケースを基に、個別業務に特化したサービスも今後展開予定です。

2. 生成AI基礎教育

- 生成AIの特徴や利用方法、活用事例に関する講座を提供
- 生成AIでの文章作成や文章チェックも体験可能
- ハンズオン（ライティング基礎講座）も実施



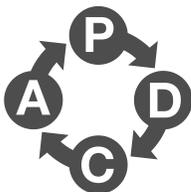
3. 課題整理支援

- ヒアリングや資料調査から業務を可視化
- 作業手順の整理やノウハウの確認を実施
- 生成AIを活用できる業務を抽出するためのワークショップ開催



4. 価値検証支援

- 実際に生成AIを活用し、お客様の業務課題を解決できるのかの検証実施を支援
- お客様固有のニーズに合わせた最適な検証プロセスを設計
- テンプレート作成など技術的なサポートも提供



5. 個別システム開発

- 価値検証で生成AIの効果が認められた後にその業務に最適化されたシステムを構築
- 既存システムとの連携も考慮した設計・開発を実施するため、シームレスな導入と運用が可能



+

今後
提供予定

個別業務特化型サービス

お客様との協創や社内検証で蓄積したユースケースを特化型サービスとして、順次提供予定

3. 当社事例

3-1 当社の活用事例紹介

システムに関する問い合わせなどで、FAQ確認や調査・検証が必要となり、完了までに時間がかかる、ソースコード生成やテストコード生成も経験者から教えてもらう時間など、対応者以外の時間が必要になることなどが課題としてありました。

当社では2024年度から開発業務や間接業務などの生成AIの適用拡大、ユースケース共有、フレームワーク適用による生成AIを活用した結果、2025年度上期実績では業務効率が8%以上向上しています。



4. サービスメニュー

4. サービスメニュー

4-1 サービスメニュー

#	メニュー	内容
1	生成AIアシスタント 基本ライセンス	生成AIアシスタントの基本ライセンスです。 生成AIの利用量として500クレジット※を含んでいます。
2	生成AIアシスタント 初期構築	生成AIアシスタントの初期構築作業です。
3	生成AIアシスタント 1ユーザライセンス	生成AIアシスタントの1ユーザの月単位のライセンスです。 1人あたり2GBのストレージが利用可能です。
4	ストレージ追加オプション	追加ストレージ2GB分のオプションです。
5	M365連携オプション	Microsoft 365によるシングルサインオン、SharePoint検索などのMicrosoft 365連携の機能を利用する際のオプションです。
6	生成AIアシスタント 追加クレジット	生成AIアシスタントの生成AIの利用量としての追加500クレジットです。
7	生成AI基礎教育	生成AIの基礎的な教育です。 (対面で20名、リモートは100名まで)
8	課題整理支援	ヒアリングや資料調査による業務の可視化、 業務課題の抽出と解決策（仮説）導出のファシリテートをします。
9	価値検証支援	お客さまが発見した課題や、課題整理支援で発見した業務 課題の解決策を実証するためのPoCに伴走します。
10	個別システム開発	価値検証で効果が確認できた仮説を、業務システムとして個別開発します。

※クレジット：生成AIアシスタント上で利用する生成AIの利用量の単位です。1クレジットで利用可能なチャット量などについては、4-2を参照ください。

4-2 クレジットの考え方について

クレジットは、生成AIアシスタントで利用する生成AIの利用量を意味します。
利用する生成AIモデルにより、消費するクレジットが異なります。
標準で500クレジット/月が含まれ、社員間で共有して利用します。追加購入も可能です。

Google Gemini 2.5 flashを利用した場合
(比較的安価なモデル)

- ・1クレジット = 約200回チャット可能※1です。
- ・500クレジットは、約100,000回のチャットが可能です。

社員100名の会社の場合
1人あたり1,000回/月のチャットが可能です。

gpt-5.2-2025-12-11を利用した場合
(平均的なモデル)

- ・1クレジット = 約32回チャット可能※1です。
- ・500クレジットは、約16,000回のチャットが可能です。

社員100名の会社の場合
1人あたり160回/月のチャットが可能です。

必要クレジットの目安
(約3,000-の利用実績から算出)

- ・標準的なご利用方法で1人あたり6～8クレジット/月 必要です。
- ・100人では 600 ～ 800クレジットです。
- ・あくまで目安であり利用頻度や利用目的により増減します。

imagen-4.0-generate-001を利用した場合
(画像生成モデル)

- ・1クレジット = 約12回の画像生成が可能です。
- ・500クレジットは、約6,000回の画像生成が可能です。

社員100名の会社の場合
1人あたり60回/月の画像生成が可能です。

※1 入力1,000文字、出力が500文字と仮定した場合のチャット回数です。生成AIはそれまでの会話の内容を参照して回答するため、会話履歴が長くなるほど利用するクレジットが増加します。

5. 動作環境

5. 動作環境

5-1 生成AIアシスタントの動作環境

サーバー

項目	内容
提供形態	SaaSとして提供

パソコン

項目	内容
OS	Windows 11
ブラウザ	Microsoft Edge、Google Chrome
オフィススイート	Microsoft 365

インターネットに接続できる環境が必要です。
タブレット/スマートフォンには対応していません。

■お問い合わせ先

株式会社 日立ソリューションズ・クリエイト

- Webでのお問い合わせ

<https://www.hitachi-solutions-create.co.jp/contact/solution.html>

- メールでのお問い合わせ

hsc-contact@mlc.hitachi-solutions.com

■お問い合わせ情報について

ご相談、ご依頼いただいた内容は回答などのため、当社の関連会社（日立ソリューションズグループ会社）および株式会社日立製作所に提供（共同利用含む）することがあります。

取り扱いには充分注意し、お客さまの許可なく他の目的に使用することはありません。

■他社商品名、商標などの引用に関する表示

- Microsoft、Microsoft 365、Microsoft Azure、Microsoft PowerPoint、Microsoft SharePoint、Microsoft Excel、Microsoft OneDrive、Microsoft Edge、Windows 11は米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Amazon Bedrockは、米国およびその他の諸国におけるAmazon.com,Inc.またはその関連会社の商標です。
- Google Gemini、Google Chromeは、Google LLC の商標または登録商標です。
- ChatGPTはOpenAI OpCo, LLCの登録商標です。

■サービス・製品の仕様に対する表示

本資料に記載しているサービス・製品の仕様は、2026年1月現在のものです。

サービス・製品の改良などにより予告なく記載されている仕様が変更になることがあります。

HITACHI